

岩手県工業技術研究推進会議 材料技術部会議事録	(実施日) 平成16年10月26日(火)
----------------------------	-------------------------

(テーマ名) トリアジンチオール有機ナノ薄膜の高機能発現研究開発 (中間評価)
---

委員	質問・意見	回答
H委員	有機ナノ薄膜は薄いほどいいのか？現在の膜厚は？強度を得るため架橋剤を入れているのか？もっと薄くできるのか？	薄いほどよい。膜厚は50ナノ前後である。架橋剤は入れている。電解重合と蒸着重合で異なるが、蒸着重合ではモノレイヤー(1ナノ位)まで制御できると考えている。
D委員	摩耗は離型膜と相手材のどちらを評価しているのか？	離型膜の摩耗を評価している。
A委員	膜が3層構造であるが、それぞれ種類や目的が違うのか？	離反性とバインダー性といった2つの機能をそれぞれ付与しており、種類も違う。
G委員	一番実用化の可能性がある分野は？封止は何の技術を利用し発展したのか？	半導体の封止関係の離型金型である。基本的には今まで得られたすべての技術が関係している。
B委員	簡易金型の「簡易」の定義は？	3日で作製でき、1000ショット使用できる金型と定義している。
E委員	一般にコンクリートとエポキシは接着するが、そこにトリアジンを使うのはなぜ？	ニッケルとエポキシを接着するために用いており、コンクリートとエポキシの接着には使っていない。
B委員	薬剤を使った金型のリユース技術は今までなかったのか？	今までそういう技術は検討されていない。